番号	年月日	種別	地区名	担当部	担当課	参加者発言趣旨 (タイトル)	内容(要旨)	懇談会での回答(現状・取り組み状況等)
1	H28.7.8	市政懇談会 (H28)	谷内	教育部	こども課	上瀬保育園の施設整備等について	3月議会定例会の一般質問の中で上瀬保育園の改築整備の質問に対し、今後策定する公共施設の総合管理計画の中で計画していくとの答弁があった。公共施設の総合管理計画はいつできて、いつ実施されるのか、上瀬保育園の整備はどのような計画になっているのか。あわせて、保育園の再編について地域との相談はどのように考えているかとの一般質問に対し、保育園の再編は民営化した後、保護者や地域の皆さんの意見を伺う考えであるとの答弁であった。まず、民営化ありきでそのあとに再編する計画のようだが、小学校が統合でなくなり、また保育園もなくなってしまうば地域から子供たちの声がますます遠くなってしまう。保育園の整備と併せて今後の見直しについて伺いたい。	上瀬保育園は昭和55年12月建築で築後35年の建物。市が管理する市内15の公立保育園全体の状況を踏まえながら必要な施設の修繕改修は毎年行っている。上瀬保育園はほふく室の床修繕などを今まで実施しており、平成27年度は遊戯室屋根修繕などを行い、保育環境の改善に努めている。市では老朽化が進んでいる公共施設の適正な管理のため、花巻市公共施設白書を平成28年3月に作成し現状把握を行っている。今後これらを維持していくためには、40年間で約3,710億円、年間約92億円経費がかかる試算結果が出ている。直近5年間の平均維持費用は約63億円で、約29億円不足する見通しとなっており、現状のまま施設を維持していくのは難しいとの課題が明らかとなってきた。公立保育園についても平成28年度に策定する公共施設等総合管理計画の方針に基づき、個別施設の計画を策定する予定となっている。公立保育園15園のうち築後30年以上経過した園が8園あり、上瀬保育園より前に建築された保育園は4園もある。これまで同様に必要な修繕等は実施しながら、公立保育園も中・長期的な課題と方向性を見定めることになる。 一方で、平成27～31年度を期間とする公立保育園再編指針を策定し、第1期実施計画では、平成29年度までに花巻地域の公立3園の保育園については民営化を進め、公立保育園の保育士の正職員比率の向上に取り組むこととしている。第2期は30～31年度で、法人立保育園の意見を聞きながら民営化を進めていきたい。上瀬保育園は定員60人に対しH28.4.1現在入所児童45人で、近年は50人程度の利用になっており、市の子ども子育て支援事業計画における東和地域の保育施設利用見込み児童数は、H27年度257人からH31年度218人に減少すると見込んでいることから、今後のあり方については、公共施設等総合管理計画ばかりではなく、総合的な見地から保育教育環境検討会議や保護者、地域の皆さんのご意見を充分に伺いながら取り組むこととしているので、教育委員会でご引に民営化を進めるものではない。 なお、入所児童の安全確保と保育環境維持は、保育を実施するうえで重要かつ必要な事項であり、今後必要な修繕等には計画的に対応する。
2	H28.7.8	市政懇談会 (H28)	谷内	教育部	こども課	上瀬保育園のトイレ修繕等について	園児のトイレは水洗化になったが、職員トイレや来賓用トイレは水洗化になっていないと聞いている。その他の施設修繕もあると思うが、喫緊の課題としてとらえて取り組んでほしい。	園運営に支障のないように、限りある予算の中で必要な部分は現場を確認しながら対応させていただく。
3	H28.7.8	市政懇談会 (H28)	谷内	教育部	こども課	公立保育園再編指針について	民間委託する期間は、第1期は28年度から29年度、第2期は31年度から32年度か。また、第3期以降の上瀬保育園の民営化については、地域の意見を聞きながら進めていくと理解してよろしいか。	公立保育園の再編指針が平成27年度から平成31年度までの5年間なので、その時点で改めて再編指針を見直し、データをお示ししながら地域の皆さんや保護者の意見をお聞きしながら進めることとなる。
4	H28.7.8	市政懇談会 (H28)	谷内	教育部	こども課	保育園の民営化に伴う市の考えについて	いままで公立保育園の果たしてきた役割があると思うので、移管先はしっかり選定して欲しいし民営化後も引き続き指導して欲しい。また、以前の説明で東和地域には一つの保育園だけでいいとの話があったが、児童数だけで判断するのではなく、地域で子供たちを育てていくということも考えて進めて欲しい。	今回の移管先の募集は、市内で保育の実績のあるところとしている。また、現状として法人立に入所している児童数は、公立保育園よりも多い状況である。移管先の選定にあたっては、保育計画などを審査し選定することとなるし、移管後も少なくとも2年から3年は計画通り実行されているか保護者の方々も交えながら確認していく。 東和地域に一つの保育園だけでいいとの話があったとのことだが、教育委員会では話をしていない。東和地域は法人立の保育園や公立の幼稚園もあることから、地域の皆さんの意見を聞きながら保育のニーズや地域特性を踏まえて進める。
5	H28.7.8	市政懇談会 (H28)	谷内	教育部	こども課	公立保育園と法人立保育園のいいところについて	公立保育園と法人立保育園のそれぞれいいところを教えてください。	公立保育園は、保健センターや発達相談センターなど、市の機関のネットワークの中で把握している特別な支援が必要な子どもを受け入れているという役割を担っている。また、保育士たちが培ってきた保育スキルは、貴重なものと考えている。 法人立保育園は、各保育園の活動内容について、園で特色をもって対応していると思うし、公立保育園は15園横並びで一斉の対応となるが、園長等の判断で臨機応変に、素早く対応できることが魅力と考えている。

番号	年月日	種別	地区名	担当部	担当課	参加者発言趣旨 (タイトル)	内容(要旨)	懇談会での回答(現状・取り組み状況等)
6	H28.7.8	市政懇談会 (H28)	谷内	建設部	都市政策課	公共交通のありかたについて	公共交通のありかたについては、市当局においてもスクールバス運行やデマンドバス運行等の見直しが進められているようであるが、現在の市の考えについて伺いたい。	市では、岩手県交通のバス路線への補助、石鳥谷地域及び東和地域、湯口地区でのデマンドバス運行、東和地域の市営バスの運行、花巻地域の市街地循環バス「ふくろう号」の運行など、地域住民の生活交通の維持、確保に努めている。しかし、路線バスについては、利用者が極めて少ない状況が続いており、将来的に路線を維持することは困難な状況と推測されるので、高齢者などの車を持たない方の生活交通を確保するため、デマンドバスの利便性の向上を図るとともに、新しい地域でのデマンドバスの運行を含めた市全体の公共交通のあり方について現在検討を行っている。 デマンドバスの利便性の向上について、現在は、利用したい日の前日までの予約が必要であるが、今年度当日予約で利用できる新システムの導入を予定しており、新システムでは当日の1時間前までに予約すれば利用できるようになる。また、現在は1日に3便又は4便と運行時間の制約があるが、新システムでは午前9時から午後5時までの運行時間内であればいつでも利用できるようになり、今年の12月から石鳥谷地域で試験運行を実施する予定である。 東和地域の公共交通については、市営バス路線の5路線の利用者が非常に少ない状況が続いており、田瀬線を除いた4路線では1便あたりの平均乗車人数が1人未満という状況である。今後、廃止を含めた市営バスのあり方について検討しなければならない状況であるが、平成29年度すぐに廃止となるものではなく、皆様からご意見を伺いながら、仮に、市営バスが廃止となった場合でも、新システムによるデマンドバスの利便性の向上やスクールバスの混乗利用など様々な手段を検討し、地域の生活交通の確保を図っていききたいと考えている。
7	H28.7.8	市政懇談会 (H28)	谷内	建設部	都市政策課	デマンド交通の運行日数などについて	当日予約が可能となるなど、新しいデマンド交通は今よりも使い勝手がよくなると思うが、週5日から6日の運行はできないものか。また、スクールバスに乗れない中学生が路線バスに乗って帰宅している。デマンド交通に一本化し路線バスを廃止すると、中学生が帰宅できなくなる課題が残ると思う。さらに料金の問題もあると思うので、さらに住民の意見を聞き検討してもらいたい。	当日予約になると、常時車両と運転手を確保する必要があり、その分経費が発生する。実際に運行し始めた後に経費が見えてくるので、それらを検討しながら運行日数も検討したい。またスクールバスに乗れない中学生が路線バスに乗って帰っている件は、教育委員会と相談しながら検討したい。料金のあり方についても、以前からの課題としてとらえているので、引き続き検討していく。
8	H28.7.8	市政懇談会 (H28)	谷内	建設部	都市政策課	新たなデマンド交通の実施時期について	デマンド交通の運行時間は、午前9時から午後5時となっているが、通院する場合遅いと感じる。各地区の意見を聞きながら検討してほしいと思うが、この新たなデマンド交通は、いつごろ結論がでるのか。	現行のデマンド交通が8時30分からなので、運行時間については今後検討していく。また路線バスがなくなることについては、拙速に進められるものではない。先行して今年の12月から石鳥谷地域で新たなデマンド交通を試行する。これらのデータを生かし、今後も地域の皆さんの意見を聞きながら、できるだけ皆さんに受け入れられる公共交通にしていきたい。実際に始めるときは、改めて説明してから始める。現状ではいつからとの話ではない。

番号	年月日	種別	地区名	担当部	担当課	参加者発言趣旨 (タイトル)	内容(要旨)	懇談会での回答(現状・取り組み状況等)
9	H28.7.8	市政懇談会 (H28)	谷内	建設部 総合政策部	都市政策課 秘書政策課	空き家対策の促進について	花巻市でも空き家対策を進めていると思うが、当地域においても居住不可能な空き家が増えており、防犯・防火対策上や景観確保上等の問題が多々生じている。空き家対策条例等を制定し、一斉清掃の際に地域で草刈りをするなど取り組みが必要と考える。今後、魅力ある地域の環境保全を図るため、空き家の活用も含めた市の取り組みについて伺いたい。	市では、「空家等対策の推進に関する特別措置法」に基づき計画を作成し、市が取り組む空家等対策の中長期的な方針と具体的な取組を示している。空家等の実態調査は、平成24年度と平成27年度に区長の調査報告と地域の皆様から情報をいただいている。今年度は、業者に委託し、8月から約500件分の現地調査を行う。空家等は個人の財産であり、基本原則は、所有者自らの責任において改善・解決を図ることである。しかし、屋根の飛散や外壁の剥落により周辺に悪影響を及ぼす等の緊急を要する場合には、所有者等の承諾を得て、消防署や県と連携し応急措置を行うこともある。これから空家等の管理不全抑制のため、所有者等と地域、行政が連携しながら所有者に適切な管理を促したいと考えている。条例等を制定し地域でも管理、対処できないかとのことだが、ご意見を踏まえ今後考えていきたい。 空き家の有効活用をめざし「空き家バンク」の仕組みを作り、平成27年8月より取り組んできた。H28.7.7現在で空き家登録件数が83件、空き家バンクを利用するための利用登録が56人となっている。そのうち、売買や賃貸の契約まで進んだ成約件数は17件と登録物件の20%が実際に活用されている。なお、東和地区における空き家の登録件数は10件と他の地域と比較して少ないことから、今後さらに掘り起しを進めていきたいと思うので、地域の空き家について情報提供をお願いしたい。空き家購入支援策として、リフォーム等に係る経費を支援する仕組みがある。現在花巻市では空き家バンク登録物件を購入した場合、県外からの方に限りリフォーム等に係る経費の1/2上限200万円を支援している。賃貸契約の場合も所有者の承諾を得たリフォームに対して経費の1/2上限100万円を支援している。また、空き家バンクに空き家を登録していただいた所有者の方に対して、成約者が市外の方であった場合に限り、契約時の清掃等に活用していただけるよう空き家バンク活用奨励金として10万円を支払っている。
10	H28.7.8	市政懇談会 (H28)	谷内	建設部	都市政策課	空き家の雑草対策について	空き家の雑草が繁茂している場合、地域で草刈りすることは可能か。	地域の課題として取り組んでいただくことは大変ありがたいことだが、個人所有のものであるので、地域のことだから地域でお願いすると簡単には言えない。相談いただいた場合は、所有者に対応するよう連絡する。
11	H28.7.8	市政懇談会 (H28)	谷内	生涯学習部	生涯学習課	若者魅力アップセミナーについて	有線で聞いた若者魅力アップセミナーはいい取り組みだと思うが、詳しい内容を教えてほしい。	生涯学習課で行っている事業。若者向けのテーブルマナーなどを月1回講師をお招きし、日曜日の午後行っている事業で、この事業は出会いの場ではなく自分のスキルアップのために行っているもの。 市では、婚活対策として「婚シェルジュ」の養成事業を行っている。昔の仲人のような方を養成しようとするもので、年齢制限があるが現在3組の応募がある。また、「おせっかい」というNPO法人もあり、結ばれた実績に対し一組3万円の助成も行っている。
12	H28.7.8	市政懇談会 (H28)	谷内	健康福祉部	国保医療課	医療費助成の手続きについて	未就学児の医療費について、現在病院の窓口で一旦支払ったあと、市から補助で戻ってくると聞いた。この手続きがもっと簡単にできないか。	未就学児については、今年の8月1日から県内一斉に、医療機関で受給者負担額のみを支払う現物給付方式となる。未就学児は、受給者負担額がないので、医療機関での支払いがなくなる。

番号	年月日	種別	地区名	担当部	担当課	参加者発言趣旨 (タイトル)	内容(要旨)	懇談会での回答(現状・取り組み状況等)
13	H28.7.8	市政懇談会 (H28)	谷内	総合政策部	人事課	支所への権限移譲について	ここ2、3年支所に権限を委譲していると思うが、その項目や予算の執行に関し、金額的に支所長はいくらまで出せるというような権限は決まっているのか。	市の予算は1本だが、総合支所で使う予算は総合支所に置いている。ここ数年は本庁事務と総合支所の事務を見直し、支所で用足しができるように、人とお金を配置しているところ。また、議会のない月は市長が支所にお邪魔して、市民のご意見を聴く機会も設けているので、そのような機会をぜひご利用いただきたい。 予算については、総合支所長枠として特別配分をしている。また、部長職・課長職として、本庁と変わらない予算執行権限がある。
14	H28.7.8	市政懇談会 (H28)	谷内	教育部	こども課	上瀬保育園のあり方に関する意見交換会について	上瀬保育園のあり方について、田瀬地域コミュニティ会議と東和東部地区コミュニティ会議と一緒に勉強会、意見交換会を開催したいと考えているので、市職員の出席についてご協力をお願いする。	わかりました。
1	H28.7.15	市政懇談会 (H28)	八日市	健康福祉部	長寿福祉課	花巻市生活支援モデル事業について	介護保険法に伴い、「花巻市生活支援モデル事業」のモデル地区となった。そこで、制度の説明と活力ある地域社会を維持するには、どの様にすれば良いか、市の考えをお聞きしたい。	介護保険は、平成26年度に制度改正となり、要介護の方々のサービスを市の事業として、全国一律のサービスから地域の実情に合わせたサービス体系をつくるという事業へと変わる。そこで市は、平成29年4月から総合事業として取組むことで、27年度から地域へ制度を説明し取組んでいる。 総合事業という事で、介護事業所が行うサービスを地域の方々・NPO等に取組んでもらい、介護事業所のサービスより安価なサービスとなる。今年度は、各地域の中で生活支援モデル実施地区を募集し、八日市地区コミュニティ会議を含めた4団体にモデル地区となってもらい、何回か説明に行っている。 介護事業所は、ヘルパーやデイサービスなどの通常の部分の事業を行い、地域の方々に行ってもらうサービスは、生活支援の部分で家事・ゴミ捨て等で、専門的分野ではなく、地域の方々の生活に密着した部分をしてもらう仕組み作りを進めている。 地域の方々ボランティア組織をつくり、一人暮らしの方や高齢者世帯を皆さんで一緒に見守り、支援して、安心して暮らしていけるようなサービスをボランティア活動として実践してもらおう。 今後皆さんの実践の結果を、各地域にお知らせしながら、市全体の取り組みとし順次に進めていく。 国の制度が変わって、平成27年4月1日から始まったが、全国的に平成27年度から実施しているところは少なく、花巻市は平成29年4月1日から、他の市町村の多くは平成29年4月1日から実施する。 この事業をすることにより、地域の活性化にも繋がり、地域の支え合いにもなる。 八日市地区にモデル地区として実践していただいて、良いところと、悪いところを改善し全市に進めていきたいと考えている。
2	H28.7.15	市政懇談会 (H28)	八日市	健康福祉部	長寿福祉課	住民ボランティアとなることについて	有償ボランティアになると思うが、登録することになるのか。時間の縛りはあるのか。それから、対象者は1人だけに対するボランティアになるのか。	ボランティアは募集し、研修を行う。ボランティアに係る保険にも加入する。時間制約の点は、ある程度、相手と身近にならないといけないと思う。ある程度は固定した形では考えているが、必ずその人でなければいけないとは思わないと思う。今後は、地域の中で要支援介護サービスを利用している方たちに、試験的にサービス提供を実践していきながら、問題等を吸上げ話合っていく。 サービス提供にあたり、本来の流れは、まず、サービスを必要とする方のケアプランを立てる。そして、サービスをどこにお願いするかということで、八日市地区の生活支援サービスを使いたいとなれば、連絡が来て依頼となり、登録いただいたボランティアを派遣する手続きをしてもらう流れとなる。 今回、モデル事業を実施するにあたり、八日市地区の要支援者に声掛けをし、サービスの利用を試してみる考えている。 ボランティアをしていただける方には、研修会を設け、1日位のスケジュールで参加してもらう方向でいる。

番号	年月日	種別	地区名	担当部	担当課	参加者発言趣旨 (タイトル)	内容(要旨)	懇談会での回答(現状・取り組み状況等)
3	H28.7.15	市政懇談会 (H28)	八日市	健康福祉部	長寿福祉課	ボランティアの年齢について	ボランティアの方の年齢制限はあるのか。	ボランティアをしていただく方の年齢制限は決めていないが、65歳以下の方は、会社等に勤めている方が多いことや、この事業の考え方にボランティアする方の社会参加や介護予防を兼ねるといった考え方があることから、主に65歳以上の方に担っていただければと考えている。
4	H28.7.15	市政懇談会 (H28)	八日市	健康福祉部	長寿福祉課	ボランティア保険について	男性であれば、庭の掃除、草刈等の参加が出来るかと思うが、人や車に傷をつけた等の物損事故も対応な保険ですか。	保険については、これと決まったものではなく、現在損害保険会社と自身の怪我、家の物を壊した場合の物損保険について調査検討している。
5	H28.7.15	市政懇談会 (H28)	八日市	健康福祉部	長寿福祉課	介護ボランティアの勤務時間について	勤務時間は何時から何時まで。例えば、夜に来てもらいたい場合とかは。	例えば、ごみ出しの場合は、朝の仕事になると思うので、基本的には朝7時頃から17時頃の設定になると思う。
6	H28.7.15	市政懇談会 (H28)	八日市	生涯学習部 石鳥谷総合支所	生涯学習課 石鳥谷総合支所 地域振興課	生活をいきいきとするための生涯学習、社会教育等について	高齢になると毎日の生活が色々な意味で、大変になってくる。生活をいきいきとするため、生涯学習とか社会教育等、いくら年を取っても勉強することは大事と思う。今までも、市の主催の生涯学習等示されることがあるが、なかなかコミュニティ会議の方と行政と、十分に地域の方に伝わっていかない気がする。もっと市とコミュニティ会議が情報共有化して、生涯学習の場に多く参加できるような、仕組み作りができないものか。	市全体で実施している生涯学習には、花巻市のまなび学園、石鳥谷では生涯学習会館、大迫・東和地区にもある。振興センターは、昨年までは、市が直接、生涯学習の講座をしていた。今年からは、コミュニティ会議が主体となり、地域づくり、地域活性化のため、それぞれの地域で生涯学習活動を行っている。今年度は、27地区コミュニティの事務局と市の生涯学習関係者と一緒に、研修会を3回実施する予定である。市では、全体で実施する旧4地区での事業は引き続き行う。地域の生涯学習は、コミュニティ会議が主体となり、地域の皆さんの要望と一緒に考えながら、実施していただく。自治公民館活動においては、お住まいの地域の方々と学習・運動することが大事なので、出前講座において講師を派遣する。利用については、現在PRしている。市では、全体の生涯学習事業もよいが、地域の活力を維持するためには、振興センター・自治公民館規模の学習活動も大切と考えており、今後も支援するとともに、コミュニティ会議とは連携して、研修等に取組んでいきたいと考えている。
7	H28.7.15	市政懇談会 (H28)	八日市	生涯学習部	生涯学習課	生涯学習の経費について	昨年まで、振興センターの生涯学習は市で実施していた。コミュニティ会議で実施する際の生涯学習の経費について、説明をお願いしたい。	今年度は、コミュニティ会議に補助金という形で、八日市地区は年間10万円程度を生涯学習費としてコミュニティ会議に交付している。来年度からは、地域づくり交付金の中から生涯学習の経費をお願いしたいと考えている。既に、地域づくり交付金の中で生涯学習の講座を対応している地区もある。生涯学習と地域づくりは別だと区切られるものではなく、地域づくりのソフト的な事業として、生涯学習講座や文化祭も該当として考えてもらって良い。
8	H28.7.15	市政懇談会 (H28)	八日市	生涯学習課 石鳥谷総合支所	生涯学習課 石鳥谷総合支所 地域振興課	生涯学習を地域ですることについて	生涯学習をコミュニティ会議や自治公民館で行う際、先立つ人が大変だと思う。市から指導や助成もしていただきながら、やっていくしかないと思うが、やることは良いが、果たして皆さんに分かってもらうにはどうしたら良いものか。	生きがいつくりは、地域の活力を維持する大きい要因となる。そこでコミュニティ会議の指導者と市の方で進めていくことで、今年度は3回の研修会をする。また、北湯口に県の生涯学習センターがあり、そちらでは県レベルの研修会が行われており、そこも協力して講習会をしましょうと話している。花巻にそういう良い施設があるので、県とも協力しながら、やっていきたいと思う。生涯学習を地域のコミュニティでするのは、花巻、北上が先進地で、次に奥州・一関。地域の活力を維持するのは、やはり地域のコミュニティであるので、コミュニティが主体となって、市も一緒にやっていく。今年度からはコミュニティ会議で2人雇用してもらい、コミュニティ会議の仕事の全面的に行っていただいている。その2人の職員には地域づくりの大きな仕事である、生涯学習も一緒にやってもらう。しかし、市の正規職員のように生涯学習について十分な知識がまだないので、研修会等、本庁・支所の職員と一緒に考えて支援する体制をつくった。今は過渡期なので、まだ十分ではないが、今後コミュニティ会議を中心に行っていただく。生涯学習の経費は、今年度は市で負担するが、来年度からは、地域づくり交付金に含む考えである。

番号	年月日	種別	地区名	担当部	担当課	参加者発言趣旨 (タイトル)	内容(要旨)	懇談会での回答(現状・取り組み状況等)
9	H28.7.15	市政懇談会 (H28)	八日市	生涯学習課 石鳥谷総合支所	生涯学習課 石鳥谷総合支所 地域振興課	生涯学習の企画の提案について	市の職員が常駐していた時は、生涯学習関係は職員に任せていた。コミュニティ会議ですぐやれるかと言われると、難しい点もある。お願いしたいのは、色々市の企画で素晴らしい内容もありますので、私たちも自発的に、何を望んでいるか忙しい中不明ですので、良い企画を提案していただき、きっかけづくりをして頂ければと思う。スポーツ関係も必要ですし、健康維持につながる様な取組みもお願いしたい。(意見のみ)	
10	H28.7.15	市政懇談会 (H28)	八日市	健康福祉部	長寿福祉課	湯のまちホット交流サービス事業について	平成22年度から「湯のまちホット交流サービス事業」を、私達は13人でサロンをつくり大変有効に活用している。皆さん農家ですが、月1回の温泉を楽しみにしている。 噂で、事業が無くなると聞き、市長さんが見えられるので、是非継続をお願いしたく今日来ました。介護も大事だが、元気な年寄りも大事にして頂きたい。10数名の70・80代のメンバーですが、1人も介護を受けてなく、皆、月1の楽しみですので、大事にして頂きたい。	事業を止めるとの話をしたことはない。去年は、大迫の温泉ではない施設を事業対象に追加した。拡充はしていくが、止める予定はない。
11	H28.7.15	市政懇談会 (H28)	八日市	農林部	農村林務課	県道石鳥谷花巻温泉線の松くい虫対策について	輪番制の区長をしている。今まで公民館長や前区長が色々努力して、県道石鳥谷花巻温泉線の松くい虫対策で、伐採していただき良かったのだが、まだ10m程残っている。さらに奥には、赤いテープを張った木が10数本残っている。 その歩道は、保育園児の散歩コースや小・中・高校生の自転車通勤路、地区民のウォーキングコースも兼ねている。木がいつ倒れるか、非常に心配している。今までの経緯を見ると、これは市、これは県という縦割りが生じていて、その点を地域の安心・安全の観点から、安心できる歩道にして欲しい。	松くい虫対策にかかる予算は、毎年減っている。国の方針では、被害が広がっていない地域を止めようとしている。花巻に関しては、大迫地域は予算がついていて集中的にやるということ。旧花巻、石鳥谷、東和地域については、危険箇所や公園・宮澤賢治童話村等には手を掛けるが、それ以外は行わないようである。 道路沿いについては、基本的には所有者に伐採してもらおう。ただし、大迫地域は松くい虫の拡大を止める予定だったが、国からの補助金が当初の見込みより大幅に減らされており、深刻な状況である。 そのうえで、県道の敷地内であれば県へ働きかけをし切ってもらおうし、私有地であれば所有者へ伐採のお願いする。通行に危険であれば、検討しなくてはならない。他にも沢山あって、全部はできないが、特別人通りが多いとか危険であれば、対応しなくてはいけない。 (市長⇒所有者を調べることを指示) 花巻バイオマス発電所で、松枯の木を引受ける話がある。松枯の木を、固まった所を切ればよいが、枝別れしているところを少しずつ切ると、運ぶコストが掛る。コストを安くするために検討する余地があると、担当部署と話し合いをしている。出来れば、松枯も花巻バイオマス発電所で対応し、所有者の負担がない様に検討している。
12	H28.7.15	市政懇談会 (H28)	八日市	建設部	道路課	葛丸川の中州の柳の木について	防災上の話だが葛丸川の問題で、私達は県から、草刈りの委託を受け河川敷は作業するが、中洲には手付かず、柳の木が素人では切れない位の太さになっている。このまま放置して置くと、2、3年前の雫石町や紫波町の集中豪雨があったが、葛丸川の堤防では、有効排水能力が落ちているのではないかと。天候異常もあるので国土交通省への要望の働きかけをお願いしたい。	国交省の出先機関である北上河川河川国道事務所に伝える。
1	H28.7.19	市政懇談会 (H28)	八幡	健康福祉部	長寿福祉課	「地域で行う生活支援・ボランティア運営」事業を「まちづくり」に活かすことについて	平成29年4月1日から花巻市の介護予防サービスが介護予防日常生活支援総合事業に変わることを機会に、当八幡地区はそれに向けてモデル地域指定を受けることになった。 「元気でまっせ」体操は、浸透してきているが、ボランティアは進んでいない。 この事業が単に介護サービス給付費や介護事業者の補てんに留まるのではなく、地域住民の絆や見守り体制の強化につながるように活かすことが重要と思われるが、そこまで持っていくためにどのように展開していったらよいか。	ボランティアは、高齢者の方々を対象と考えている。高齢者の方が支援する側に回っていく事で、介護予防の効果が出る。 この事業は、介護保険からの支出を抑えることだけが目的ではなく、高齢者がボランティアを支援することにより、自分が要介護にならない様に色々考え行動をとる事により元気な高齢者を増やすことも目的である。 また、この事業をすることにより、地域の活性化にも繋がり、地域の支え合いにもなる。 来年からボランティアに行っていたきたいことを、前倒しでやる。ボランティアを募集し、研修を受けていただき取組んで行く。
2	H28.7.19	市政懇談会 (H28)	八幡	健康福祉部	長寿福祉課	要支援者とボランティアとのトラブルについて	高齢者を支援をするにあたり、要支援者とボランティアの間で、トラブルが発生した際、市として、どうすることが想定されるか。ボランティア研修もあるが、トラブルがないようお願いしたい。せつかくのまちづくりのためにやっていることが、裏目に出ないように色々想定し検討をお願いしたい。	ボランティア研修については、八幡地区は9月と11月に予定している。準備が整い次第、第1回目を9月に開催し、1日4時間位の研修を2日間で計画したい。その中で、ご指摘の想定される問題点については、社会福祉協議会でノウハウがあるので、社協と一緒に研修会に取り入れていく。

番号	年月日	種別	地区名	担当部	担当課	参加者発言趣旨 (タイトル)	内容(要旨)	懇談会での回答(現状・取り組み状況等)
3	H28.7.19	市政懇談会 (H28)	八幡	生涯学習部	生涯学習課	「豊かなまちづくり」のために「精神的な成長」を図るための生涯学習の充実について	コミュニティ会議の役割は、地域住民に対しての学習機会を、地域住民が求めるものに基づいて、地域住民に対し学習機会を提供する事が、我々の役割なのではと思っている。 コミュニティ会議とすれば、住民の必要・需要を把握しながら、生涯学習を進めていきたいと思っている。市としての考えをお聞きしたい。	生涯学習には、個人の心を豊かにするだけではなく、学習の成果が地域や社会で活かされ、あるいは学びによって地域の連帯感が深まり、コミュニティの形成や地域、そして、まちの活性化を促す効果があると共に、郷土を愛し丈夫な体と深い知性を持つ心豊かな市民が育ち、本市のまちづくりを支え発展に導く大きな力になるものと考えている。 生涯学習という事で、市の全体の取り組みもあるが、地区単位等の取り組みに対して、出前講座等色々メニューを準備している。 やりたい事などを生涯学習課の担当の方に相談して頂き、より良いまちづくりに、繋げる学習活動にしていただければと考えてる。
4	H28.7.19	市政懇談会 (H28)	八幡	生涯学習部 石鳥谷総合支所	生涯学習課 石鳥谷総合支所 地域振興課	コミュニティ会議への支援について	以前は、地区公民館には市職員が勤務していて、生涯学習も活発だった。 今は、地域の事は地域で、ということからコミュニティ会議が出来た。 コミュニティ会議の活動は、私たちのまちづくりをより良いものにしたいため、市には、積極的な声掛けとご支援・ご指導をお願いしたい。 また、市の各部署での横断的なサポートもお願いしたい。	石鳥谷については公民館活動が活発で、公民館が地域のリーダー的役割の特色があったことは認識している。 生涯学習は、市の生涯学習部、地域支援監を含め支所の職員が、ノウハウをもっている。地域支援監は正にそれが仕事なので、地区に出て一緒に考えていく事を願っている。
5	H28.7.19	市政懇談会 (H28)	八幡	総合政策部	地域づくり課	「男女(みんな)の特性を活かしたまちづくり」について	「男女(みんな)が互いに認め合い、ともにきらめくまち」づくりを目標に、花巻市は今年度から男女共同参画第2次基本計画を始めようとしている。このことから、各地域が進めている地域づくりでは、「男女(みんな)の特性を活かしたまちづくり」を意識した推進を図ることになるが、どのように進めるべきか。	市の考え方は、地域づくりは女性や若い方も必要との認識である。平成19年に花巻市男女共同参画基本計画を作成、平成27年度は計画の見直しを行い、平成28年3月に第2次の男女共同参画基本計画を作成、広報でPRした。まず1番大事なのは意識改革だと思う。 市では男女共同参画推進委員として17人を委嘱している。例えば推進員の活動で、各地区の集会等に行き、女性参画、女性視点での参加が必要だという内容の寸劇を行うなどして、男女共同参画を普及させる講座をしている。 担当は、本庁地域づくり課になるが、総合支所では地域支援監なり地域振興課に問い合わせいただければ、各地区の集会等に伺う。 また、コミュニティ会議役員の女性の割合を高めようという事で、市全体で3割を平成35年の目標としている。今市全体で、平均11.4%が春の段階の数字で、これを3倍にするという大きい目標を立てた。地区で考えて頂きながら、少しずつできる事から、市も一緒になってやっていきたいと思う。
6	H28.7.19	市政懇談会 (H28)	八幡	建設部	都市政策課	空き家調査について	昨年度区長宛に、空き家の有無を調べてくれとの依頼があり、調べて報告したが、「たまに来て手入れをするのは除く」とあり、それであれば回答0件で報告した。年に1回であれば、手入れをしているとは言えないのではと思う。 市への質問は、区長からの報告書での確認なのか、それとも市で調査・所有者確認をし、手入れ等の指導をするのか聞きたい。	調査したのは、「空家等対策の推進に関する特別措置法」でいう「特定空家等」になりうるような空家家かどうか。「特定空家等」になれば、危険とか近隣に迷惑を掛ける、道路にはみ出す、あるいは非常に不衛生で、ねずみ等が大量発生し、近隣に害を与える場合は、市が是正することを指示・勧告・命令をして、それでも駄目な場合は、市が措置をし、代金を所有者に請求する為の基礎資料としてお願いしたものである。 もし危険または不衛生であるのであれば、情報は伝えていただきたい。
7	H28.7.19	市政懇談会 (H28)	八幡	市民生活部	生活環境課	市で設置している公衆トイレについて	冬時期、洋式トイレの便座が冷たくて座れない。 鳥谷崎神社の隣の立派なトイレは市の管轄か。あそこは、近代的なトイレで、ウォッシュレットもあり、便利快適だ。 全市統一にならないものか。市の体育館も冬時期、冷たくて使えない。	公衆トイレの設置には、非常に費用がかかる。 市の施設のトイレは、和式が多いので少しずつ洋式に替えていく。今年は国体があるので、花巻球場のトイレを洋式にした。 高額な費用がかかるので、少しずつ、計画的に替えていくことにしている。

番号	年月日	種別	地区名	担当部	担当課	参加者発言趣旨 (タイトル)	内容(要旨)	懇談会での回答(現状・取り組み状況等)
8	H28.7.19	市政懇談会 (H28)	八幡	健康福祉部	地域医療対策室	花巻市に医師を増やすことについて	市は医師確保対策に奨学金制度を設けていると聞いたが、奨学金制度だけで、果たして医者または開業医が増えるのか。奨学金を利用して医者になっても、必ずしも花巻市に住むとは限らない。それよりも、花巻市に開業したい人に対して、補助金・開業資金等を出す方法が良いのではないか。	市の奨学金の制度は、医者に限らず、高校生は高校生、大学生は大学生と一律の制度になっている。 開業医に補助金を出している市はあるが、確か1億円と新聞に記載されていたが、出したからといって、必ず来るものでもない。 医師の奨学金は、県の奨学金制度が3種類ある。その内、市町村が出資しているのを岩手県国保連が取りまとめている「市町村医師養成修学資金」に花巻市も拠出している。 奨学金を受けた医師は、制度の違いによって卒業した後6～9年間、岩手県立病院もしくは公的病院に勤務する義務がある。 しかし、当市の花巻地区にはそのような義務履行する病院がないこと。 また現在、沿岸において医師が不足していることから、花巻市内に医師が配置にならない。 国保連には、花巻市に医師を配置して欲しい旨を強く要望しており、県内全市町村に、医師配置についてのアンケート調査を実施してもらうことを検討していただいている。
1	H28.7.22	市政懇談会 (H28)	宮野目	消防本部	消防本部総務課	消防団員の確保について	宮野目地区でも消防団員のなり手がなくて、各消防団で対応に苦労している。 「消防団組織見直し委員会」で話し合われている内容と、組織の段階的な見直しの具体的な内容について教えてほしい。 消防団組織等の見直しには、団員の定員、機能別消防団員の構成割合等も含まれるのか。	消防団員の確保が困難になっているため、将来にわたって持続可能な消防団の再編を目指すことを目的に平成25年10月から「花巻市消防団組織等見直し委員会」を開催し、計6回の委員会を開催し協議を重ねている。委員会での検討内容は、分団内部の現状や課題を把握するためアンケート調査等の実施、消防団員の負担軽減を図るために団行事の見直しから始めている。 消防団員の確保のために、事業所で働く団員の活動環境を整える「消防団協力事業所表示制度」の普及に加え、平成28年1月からは新たに「花巻市消防団応援事業要綱」を策定し、消防団員やその家族が団員カード提示によって割引、入場料の減免などのサービスが受けられることで、消防団員を地域ぐるみで応援し、地域防災力の向上と団員の確保につなげることを進めている。 今後の消防団組織の在り方について、比較的若い消防団の部長、班長を対象にアンケートを行い、現状と5年後10年後の将来を見据えた意見や提言を集約、検討し、今後の消防団組織のビジョン策定につなげていきたい。 平成28年3月15日に「花巻市消防団組織等見直し委員会」を開催し、今後は花巻市消防団の再編計画を策定するために、部長、班長を対象としたアンケートを実施し、若い人たちの意見や提言を集約検討して、たたき台となる再編計画案を作って協議する。 団員の定員の見直し、機能別消防団員の構成割合等も会議の委員の中で協議を行いたい。

番号	年月日	種別	地区名	担当部	担当課	参加者発言趣旨 (タイトル)	内容(要旨)	懇談会での回答(現状・取り組み状況等)
2	H28.7.22	市政懇談会 (H28)	宮野目	建設部	道路課 下水道課	下水道工事後の舗装復元箇所 の凹凸について	舗装された市道における下水道管施設工事施工後の舗装復元工事箇所について、あちこちで凹凸が生じている。不具合箇所は歩道のない児童の通学路等にも生じていて、交通安全の面からも懸念がもたれる。施工不良、監督不十分ではなく、道路掘削復旧工事の設計施工基準等に問題があるのではないかと。不具合が出ないよう施工基準の見直しが必要と思われるがいかかが。 不具合箇所の補修は、原因となった下水道事業の予算で対応できないか。早急に補修をお願いしたい。	下水道工事については、花巻市道路復旧相成図を定めて、舗装の復旧を行っている。花巻市道路復旧相成図は道路の規格に応じて舗装や路盤の厚さを定めており、工事する場所の舗装構造と同等以上のもの で定めているので問題はないと考えている。また、この構造をよりよくするとさらに事業費が増大するため、現在見直しは考えていない。 施工に関しては、岩手県の下水道工事の施工基準、花巻市道路復旧相成図に基づいて行っており、工事の監督員等が随時立ち会って確認をしながら工事を進め、工事完成時には別の課の検査員により完了検査をして適正に行われていることを確認している。しかし、東日本大震災によって、地盤がかなり緩んでいるところもあり、今に至っても震災の影響が徐々に発現している箇所もあるため、まだ路面の復旧は終わっていないという認識である。また、長年の使用による舗装の摩耗や凹みもあるため、交通量の多い幹線道路や損傷の大きい箇所を優先して補修を行っている。 下水道の工事をした場所の不具合については、下水道事業の予算で補修を実施しているが、下水道事業費にも限りがあるため、道路課と連携しながら対応している。 平成19年度から下水道工事の道路復旧設計基準が見直され、全車線、片車線を復旧できるようになり、平成18年度以前の補修よりも沈下等は少なくなった。 路面の凹凸箇所はかなりのため、路面状況確認のパトロールを行い、適正な維持管理に努めたい。
3	H28.7.22	市政懇談会 (H28)	宮野目	教育部	教育企画課	宮野目中学校野球グラウンドの ボール除けネットの設置について	宮野目中学校の野球部グラウンド南側(三塁側)に、ボール除けネットがない。グラウンド南側には水田があり、年間数十個のボールが飛んで行ってしまう。練習試合でもよく使われている。東側(一塁側)と同じくボール除けネットを張ってほしい。	グラウンド南側は、桜・松の樹木と、1~1.2mのネットフェンスが整備されている。グラウンド東側は、8m位の防球ネットを整備しており、南側と東側で違いがある。春先に、グラウンドからの砂が水路に入ること で、今年砂防ネットを整備した。水田所有者の方にご迷惑をおかけしていること、車両に間違っ てボールが当たるとい うことがあること ご迷惑をおかけすることからも、ネットを設置する方向で検討させていただきたい。今年度の予算での施工は難しいので、来年度に予算を確保して施工したい。
4	H28.7.22	市政懇談会 (H28)	宮野目	教育部	教育企画課	水路の泥上げについて	水路に学校の桜の木の葉が落ちて、汚泥がたまっている。学校のグラウンドの砂が飛んできて水路に入ってくるので、地域住民が毎年3回は泥上げをしている。4月に学校に話をしているが、学校の生徒、PTAでも水路、側溝の泥上げをするよう、教育委員会からも助言してくれないか。	教育委員会からも、中学校に話をしてみる。生徒会のボランティア活動に教育委員会から予算を出している ので、ボランティア活動で堰の泥上げに携わるのも社会的活動として考えられるのではないかと 思われる。内容について、学校とできることできないことを話し合いたい。
5	H28.7.22	市政懇談会 (H28)	宮野目	消防本部	消防本部総務課	消防団員の確保について	消防団員に入場料の割引があるという話であったが、それは現団員に対する優遇措置であって、これから入ってくる方はそれを聞いて喜んで入団してくるのか疑問である。消防組織の改編も、今加入している人に関する ことである。新入団員が確保できないということが問題になっているので、新しい方が入ってくれるような環境、視点での検討をお願いしたい。	公共施設、店舗の優遇だけでは、新入団員は入らないだろう。ただ、地域の方のために働いている人たちに対して、何らかの形で評価し、表 したい。誇りを持って働いていただけるように、いろいろ考えていること の1つである。 新入団員が入ってもらえるような方は、今後の会議でもど んどん話して いただきたい。

番号	年月日	種別	地区名	担当部	担当課	参加者発言趣旨 (タイトル)	内容(要旨)	懇談会での回答(現状・取り組み状況等)
6	H28.7.22	市政懇談会 (H28)	宮野目	消防本部	消防本部総務課	消防の活動について	安心・安全の地域形成は進んできているが、消防の活動・組織を住民に広めて、知ってもらう必要があるのではないか。絶対に必要な組織であるという意識を、住民に植え付けていかないといけないのではないか。	安心・安全の支えの中心となっている一つは、消防団である。ひとたび大きな災害が発生すると、消防・警察だけでは対応が追い付かない。阪神・淡路の震災の経験者によると、消防では100件ある救助事案に対して、3～4件程度しか対応することができないとのことである。あとは地域住民に頑張ってもらえない。地域住民の中心となるのが消防団である。 春と秋の火災予防運動での消防団のPR活動、市のHPでも活動を紹介している。消防団組織等見直し委員会でも、ご指摘いただいたところを考えながら進めていきたい。 大変重要な仕事をしていただいている。市でも、消防の活動にはなるべく参加して、新聞等に取り上げてもらうことで、消防の素晴らしい活動を市民の方に認識していただけるよう広報をしっかりとしていきたい。 熊本地震の被災地に、消防から2名、11日間現地に入ってもらった。今度は被害家屋の現況調査に1週間ずつ2名行ってもらっている。消防の大切さなどをもっと周知広報していくことは大事である。
7	H28.7.22	市政懇談会 (H28)	宮野目	花巻市消防本部	総務課	消防団について	市職員で消防団に入団している人、公務員の人数を教えてください。昔は農業の人が多かったが、今は日中働いている人が多いので、入団の妨げになっているのではないかと。企業・役所が理解していないから入団する人がないのではないかと。市長から企業・団体へお願いするしかないのではないかと。	花巻市の消防団員は、4/1現在で1,920人。そのうち地方公務員が109人入団しており、内訳は、県職員が10人、花巻市職員が97人、その他の市職員が2人となっている。 一般の事業所に関しては消防団協力事業所表示制度があり、花巻市では15件の事業所が登録・表示している。消防団員が会社に所属しており、勤務中の消防団活動を欠勤としない、火災や災害時には重機などを消防団に提供するなどの協力をする会社である。会社の社会貢献という形で15件の会社を認定している。市内の誘致企業等ではご理解を得られないことも多いので、会社の上司宛に協力依頼の文書等を送付するなどの対応をしている。 市職員約600人のうち、100人ほどが消防団に入団しており、ほかの市町村と比較して割合は高い。割合が高ければいいというものでなく、大きな災害が発生すると、市職員としての仕事があるため、この人数がいいのか悪いのかはわからない。難しいところである。 市の人事担当では、新採用研修において消防団入団や地域活動への積極的な参加などの話をしている。 市職員の消防団員は、多く入っているほうだと思う。引き続き入ってもらえるよう声掛けを続けていきたい。企業についても、ご理解を得られるようお願いをしたい。
8	H28.7.22	市政懇談会 (H28)	宮野目	総合政策部 農林部 商工観光部	地域づくり課 農政課 観光課	グリーンツーリズムと婚活について	グリーンツーリズムの受け入れを行っているが、年々訪れる学校が減っている。他の自治体・JAでは、いろいろ工夫してPRしているので、花巻市としても重要に考えてほしい。農業関係の体験だけでなく、加工体験をして学校や子供たちに加工品を送付するなど、花巻市も一緒に考えて実施してほしい。東和に「お試し工房」はあるが、予約がいっぱいで使えない。農協でも加工施設があってリンゴジュースはできるが、使わずに状況である。空いている施設を工夫して使っていきたい。 農業青年・家族が夢を持って頑張るグリーンツーリズムの受け入れをしていけるように、婚活対策の現状・方向性を伺いたい。	グリーンツーリズムは、特に農協に大変協力いただいている。学校の生徒を引っ張ってくることが多いが、訪れる学校の減少についてよくわからないが、子供の数の減少と、受け入れ農家の減少があるのかもしれない。グリーンツーリズムについては、もう少し見直す必要がある。大人を呼んできて農業体験をして温泉に泊ってもらったなどの組み合わせをやっていかないといけない。グリーンツーリズムは農林部が担当しているが、農林部の職員数は少ないと思っている。農地中間管理機構事業はおそらく全国1番であり、手続的なことの仕事を精いっぱい、新しい企画をやる余裕がなくなっている。団体が終わったら、農林部の人員を増やす必要があるかもしれない。観光との関わりもあるので、観光課と観光協会を強化して、大人のグリーンツーリズムをやっていくことも考えないといけない。ただ、合併前と比較して職員数が減っているので、無理しない中で考えていく必要がある。 東和に「おせっ会」という団体があり、婚活支援をしていて実績を上げている。頑張っている団体に対して、成婚した場合に3万円を出している。お見合いをさりげなくお勧めする人を養成する「婚シェルジュ」育成事業を行っている。

番号	年月日	種別	地区名	担当部	担当課	参加者発言趣旨 (タイトル)	内容(要旨)	懇談会での回答(現状・取り組み状況等)
9	H28.7.22	市政懇談会 (H28)	宮野目	総合政策部	秘書政策課	ふるさと納税について	花巻市のふるさと納税は、どれくらいの金額か。全国では何番目か。	平成27年度のふるさと納税は約2億円集まった。全国的に見ても、少ないほうではないと思われる。花巻で多いのは、リンゴジュース、早池峰ヨーグルト、エーデルワイン、お酒である。りんごも好評である。花巻でユニークなものは、JALと提携して、飛行機と温泉旅館宿泊の組み合わせのものがある。ふるさと納税のコストは半分以上かかるが、1億円は賢治生誕120周年や早池峰神楽、早池峰の道路の整備など普段使えないものに使わせてもらっている。どうやって花巻のものを目立たせるかが課題である。経済への刺激や業者の方に喜んでもらっていることを考えると、お金はかかるが、ふるさと納税用の冊子を準備することも考えたらいいかもれない。今までのお客さんや市場を大切にしながら、ふるさと納税の制度を使っていきたい。 全国で何番目かは統計がないため不明だが、平均より多い金額である。
10	H28.7.22	市政懇談会 (H28)	宮野目			サークル補助について	昔は高額所得のある人が寄付をしたりしていた。小さなサークルをやっているが、年々補助金が少なくなっているの、寄付のお金を補助金として回してもらえないか。	昔に比べると高額所得者は減っていると思われるが、寄付して下さる方はいる。以前は寄付していただいたお金を基金に積み立てていたが、具体的に使うことにした。菓の飲み忘れ防止の機械、学校の図書などに使わせてもらった。寄付して下さる方がいらっしゃるの、大変ありがたい。 花巻市の財政はあまり潤沢ではないが、使わないといけなところには使わせていただく。例えば、道路の整備予算は昨年度8億5千万円だったが、今年度は国からくるお金が多く17億円くらい予算措置している。国も財政は厳しいが、経済効果や子供の安全のためなどがあれば予算がつく。そのお金をもらって、各道路の整備を行いたい。 花巻市が500億円もお金を使えるのは、合併特例債をさらに10年延長して使えることになったからで、これを有効に使って借金を減らしていきたい。そんなにいろんなものに使えるわけではないので、必要なお金は出していききたいが限界があることをご理解いただきたい。
1	H28.7.26	市政懇談会 (H28)	成島	総合政策部	地域づくり課	結婚支援について	女性の社会参加などにより、晩婚化や未婚化がどの地域でも課題になっている。個人情報やプライバシーの関係で、昔のような仲人もいなくなった。花巻市で行っている婚活事業の紹介と実績、課題について伺う。 また、民放テレビでお見合いに関する番組があった。参加者は全国から誘致自治体に集まってくるので、成婚に至れば人口が増えると思うし、番組の中で誘致自治体の市長がまちの魅力を発信していた。花巻市でも大いにPRできると感じたので、番組に応募する考えはないか伺う。	現在、市では市内の婚活支援団体が行う結婚仲介事業に対して、結婚活動支援団体育成事業を行い、成婚1件あたり3万円の補助金を交付している。現在はNPO法人おせっ会とJAいわて花巻の2団体がある。昨年度はおせっ会に3万円、1件分を交付しているが、本年度はまだ実績がない。 課題について団体から聞いたところ、個人の情報を書類として提出しなければならぬこともあり、使いづらいつの話しもあつたので今後検討したい。 また、昔の仲人のような夫婦の育成事業として、はなまき婚シェルジュ育成事業を行っている。市内在住で50歳未満の夫婦が結婚を希望する独身の男女からの相談に応じ、結婚に至るまでの支援に必要な知識を習得するための研修を行う事業で、現在は4組の夫婦が研修を受けている。 さらに岩手県では、平成27年10月にいきいき岩手結婚サポートセンターを立ち上げた。花巻市は25万円の負担金を拠出している。 テレビ番組を誘致することについて調査したところ、この番組は不定期番組であり、現在は募集を行っていないとの回答だった。花巻の情報を発信し多くの方に市を訪れてもらうことはいいことなので、他の番組もあるか調査し考えていきたい。
2	H28.7.26	市政懇談会 (H28)	成島	総合政策部	地域づくり課	花巻版お見合い大作戦について	市と行政区長とで本人の了解のもと、結婚希望者の名簿を年代別別作成し、花巻版のお見合い大作戦として、出会いの場を設けてはどうか。 特に50代60代の方は参加に消極的だと思うので、区長を仲介役として挟んで実施してみたいか。	市では、年に数回婚活支援団体や商工会議所青年部などと意見交換会を実施している。話の中で、結婚はしたいけど婚活パーティーは遠慮する方が多いと聞いている。行政が主導となると、プライバシーや個人情報等の問題もあり、行政区長にお願いするのは難しいと思う。市では婚活支援団体と行政ができることを情報交換させていただいているので、その中でも話題にしていきたい。

番号	年月日	種別	地区名	担当部	担当課	参加者発言趣旨 (タイトル)	内容(要旨)	懇談会での回答(現状・取り組み状況等)
3	H28.7.26	市政懇談会 (H28)	成島	健康福祉部	長寿福祉課	高齢者いきいきプランについて	高齢者いきいきプランの概要について伺いたい。	団塊の世代すべてが75歳以上となる2025年における介護保険事業のあるべき姿を見据え、平成27年3月に高齢者いきいきプランを策定した。現在の高齢化率は32%で、2025年には35.6%に、介護保険料も現在5,506円から、8,000円を超えると推計しており、皆さんの負担も増えることとなる。安定的な介護保険制度の維持のためには、工夫をしながらサービス給付を抑えていくことが重要な課題となっている。国の介護保険制度改正に伴い、要支援の方に提供しているサービス給付を、市町村事業として地域に合わせて行うこととなった。この新たな総合事業は平成29年度から取り組むこととなっており、主な内容はNPOや地域の団体などにサービスを提供する組織を作っていたり、生活支援サービスの掃除などを担っていただくことを考えている。現在、市内4か所でモデル地区として取り組んでいただいております。成島地区は、地域住民で運営している通いの場に早い段階から取り組まれており、生活支援体制を構築する地域力を持ち合わせていると認識しているので、よろしく願います。
4	H28.7.26	市政懇談会 (H28)	成島	健康福祉部	長寿福祉課	新たなサービスを提供する体制づくりについて	新しい事業に取り組むにあたり参考にしたいので、具体的に取り組んでいるところの事例を教えてください。また、コミュニティ会議の関わりは、どのような役割を果たせばいいのか併せて伺う。	今年度においてモデル地区として、宮野目、笹間、八幡、八日市地区のコミュニティ会議における生活支援サービスの試行の取り組みを進めており、地域の皆さんと一緒に体制づくりをしていきたい。 また、コミュニティ会議の関わり方は、コミュニティ会議が必ずしも関わらなければならないものではないが、モデル地区でもコミュニティ会議が中心となり地域住民の合意形成や組織の立ち上げなどご支援をいただいているところである。 モデル地区の取り組み状況は、コミュニティ会議が中心となり自治会などと一緒に体制を作っている。取り組む際の組織の事務局を決めていただき、実際に利用したい人と生活支援サービス提供組織の仲介は、ケアマネジャーが行う。実際にサービスを受ける際には、ご本人から同意を得ることとなるし、サービスを受ける方のプライバシーは、支援に携わるすべての人に守秘義務がある。
5	H28.7.26	市政懇談会 (H28)	成島	農林部	農村林務課	有害鳥獣駆除について	成島地区でも野菜や果物が、クマやタヌキ、シカ、ハクビシンなどによる被害が毎年続いている。また、猟友会の人数も減少し高齢化していると聞いている。このような中で鳥獣被害に対して、有効な被害防止や駆除対策を教えてください。	有害鳥獣被害対策については、平成27年度に花巻市鳥獣被害防止計画を平成29年度までの第2期目として作成し、県の鳥獣被害防止総合支援事業を活用してツキノワグマやニホンジカ、カラス、ウツなどの捕獲等を行うとともに、防護柵の設置に係る補助や罾の貸し出しなどにより被害の軽減に取り組んでいる。花巻市における平成27年度の農作物の被害額は、8,800万円となっている。 特にニホンジカによる農作物被害が増加していることから、花巻市では年間捕獲計画数を750頭としている。今年度、国の交付金を活用した鳥獣被害防止総合支援事業の予算要望額より少ない予算配分となっている。県が実施する個体調整のための指定管理鳥獣捕獲等事業や一般狩猟による捕獲頭数を含めても500頭程度と見込まれ、市が計画している750頭の捕獲頭数に達しない状況にある。このことから、県を通じて国に対して予算の増額を要望するとともに、県が行う個体調整のための捕獲頭数を増やすよう要望している。また、それと並行して市独自の補助の必要性についても検討している。 防除については、電気柵が有効であるので、その設置費に対し7万円を上限に1/2の補助を行っている。28年度からは3戸以上の組織で設置する場合には、30万円を上限に補助率を3/4に上げる制度としたので、ぜひ活用願いたい。クマやシカの捕獲については、銃等の免許や捕獲の許可が必要であるため、被害報告を受けた場合に、花巻市鳥獣被害対策実施隊による捕獲活動を実施している。また、ハクビシンについては自分の農地や敷地内であれば、免許がなくても許可を取って箱わなでの捕獲が可能である。農村林務課や東和総合支所地域振興課では箱わなの貸し出しを行っているため担当へ相談してほしい。

番号	年月日	種別	地区名	担当部	担当課	参加者発言趣旨 (タイトル)	内容(要旨)	懇談会での回答(現状・取り組み状況等)
6	H28.7.26	市政懇談会 (H28)	成島	農林部	農村林務課	里山の管理について	里山の管理は、所有者の高齢化などにより手入れがされていない。ついでには、杉の木から広葉樹へ移植し山の手入れを市で行うなど、打つ手立てはないものか。	市内には、バイオマス発電の施設ができ、有料で引き取ってもらえる。北上市には合板の工場が建設されるなど、今後木材の需要が見込まれることから、山に目が向くだろうと考えている。木の伐採後の対応については、広葉樹を植えるなど専門家の話を聞きながら進めていきたい。 大迫地域には、地域おこし協力隊員として、林業について地域の人たちと考えてもらうため1名採用する予定である。また、富士大学の学長は、林業の専門家であり、花巻市森林組合の専務理事に岩手県の林業の技監だった人が就任した。木の需要と知恵をもらえる環境が整ってきたので、話を聞きながらまずは市有林の経営計画を立てていきたい。
7	H28.7.26	市政懇談会 (H28)	成島	農林部	農村林務課	森林組合との連携について	花巻市森林組合では、木の伐採や広葉樹を植えたい方に、1ha以上の面積を実施することが条件とする補助事業を始めた。まだ始めたばかりであまり使用されていないが、森林組合職員もいるので森林活用について併せて考えていただきたい。	森林組合と連携していくことは大事なので、知恵を借りながら行いたいし、実際の伐採などもお願いしたいと考えている。
8	H28.7.26	市政懇談会 (H28)	成島	商工観光部	観光課	観光看板について	土沢駅に降りたときに、フォルクローロで作った東和町の観光看板がある。この看板に今はなくなっている会社の名前が載っていた。一番先に観光客が見るものなので、お客様に失礼だと思う。花巻市をPRするには看板の変更も大切だと思う。	確かにその通り。今観光課でも道路看板を調査していたので、この件について聞いてみる。
9	H28.7.26	市政懇談会 (H28)	成島	健康福祉部	長寿福祉課	新たなサービスを提供する体制について	介護の生活支援総合事業について、先ほどからの話を聞いて、市などのコーディネーターを地域で選んでやっていかないとまく回らないと考えた。	どのような方法がいいかは担当課でも考えるが、地域で話し合ってもらい一緒に検討して決めていただくこととなるので、よろしく願います。
10	H28.7.26	市政懇談会 (H28)	成島	農林部	農村林務課	公共施設における松くい虫被害木の処理について	お金がなく伐採もできないとの話を聞くが、せめて市で管理する施設内にある松くい虫被害木は伐採できないものか。	国では、松くい虫について守るべき地域とあきらめる地域と分けて考えている。市の計画の中で、まつたけ山は守るべき地域と位置付けている。今年、国の方針が変わった可能性があり、国からの予算が当初予定したくらい来なかったため規模を縮小しなければならず、公共施設についてもどこを守っていくか計画を作り直さないといけないと考えている。
11	H28.7.26	市政懇談会 (H28)	成島	農林部	農村林務課	松くい虫被害木の有効活用について	松くい虫被害木をただ捨てるのではなく、原料にして火力発電をすれば有効活用はできないものか。	現在、火力で発電する花巻バイオマスで引き取ってもらえるよう話しているところ。あとは、切り出し代金と買取代金のバランスを検討している。